



ミクロネシア NEWS

2019年4月22日第8号
JICA 青年海外協力隊
ミクロネシア連邦派遣
小学校教育隊員
磯崎 春美(中野区立江原小学校)

江原小学校のみなさん、こんにちは。新学年への進級おめでとうございます。新しい教室、担任の先生、授業などわくわくすることがたくさん待っていますね。そして1年生のみなさん、入学おめでとうございます。3つある校庭でたくさん遊んでください。さて、桜も満開の季節をすぎ、あたたかな季節がもうすぐやってきます。私の住んでいるミクロネシアには桜がないので、春の桜満開の景色がとても恋しいです。日本では新年度、新しい学年が4月から始まりますが、こちらの学校では5月中旬に終業式、そして新年度は8月から始まります。4月はまとめの時期、勉強も復習に力をいれて学年の総仕上げをしています。

今回のミクロネシアニュースは改めて私の自己紹介と青年海外協力隊としての仕事を紹介します。



わたしの名前は磯崎春美(いそざきはるみ)です。私は去年の4月まで5年間、江原小学校で働いていました。現在は青年協力隊としてミクロネシア連邦、ポンペイ州で算数の先生をしています。実際にどんな仕事をしているかというと、主に3つのことをしています。

1. 勤務先の小学校の先生と算数の授業を計画、準備をする。
2. 現地の先生のための勉強会をひらく。
3. 音楽クラブ、図工クラブの指導をする。



算数の授業

青年海外協力隊の仕事は「これをやってください。」という決められた仕事はあまりありません。私が最初に学校に行った時も、校長先生から「日本での経験を生かしてできることをなんでもやってみてください。」と言われました。そこで、1年生から8年生まですべてのクラスの授業を観察しました。(とても大きな学校なので、全部で35クラスありました。)そして、子供たちが簡単な足し算、引き算でつまづいていること。どんな計算も指やものを使わないと解けないことを知り、低学年の授業を手伝うことに決めました。ポンペイの学校には教科書がありません。なので、先生によっても教え方や内容が違います。算数を教えるのが苦手な先生を見つけて、その人をパートナーとすることから始めました。

パートナーになったメルリン先生は算数が苦手。教えるときはとにかく言葉で一方向的に伝えるばかりでした。時にはできなかった子どもの頭をたたいたりもしていました。そこで、間違いから学ぶことは大切なことだとメルリン先生に分かってもらい、子供たちが実際に体験できる活動を増やしていこうと決めました。二人で話し合っ楽しい算数のゲームをつくっています。だんだんとメルリン先生から新しいアイデアを伝えてくれるようになり、子供たちも笑顔で算数の勉強をするようになっていきます。



(時計の読み方を教えています。)



(形の授業*名前と形を正しく組み合わせるゲームをしました)

先生の勉強会



もう一つ大切な仕事が先生たちへの勉強会です。実はこの勉強会は最近始めました。先生たちに伝えたいことがたくさんあったからです。

- ☆どうしてこの単元を勉強するのか。
- ☆生活にどう生かされるのか。
- ☆ほかの学年とどうつながっていくのか。

楽しい算数的活動やワークシートを紹介して、実際に体験してもらいました。



音楽・図工クラブ



最後に紹介するのは、クラブ活動です。江原小学校と同じようにネッチ小学校にもいくつかのクラブがあります。スポーツクラブや環境クラブなどがあります。私は音楽クラブと図工クラブを現地の先生と担当しています。

いま図工クラブでは、群馬県富岡市の小中学生と絵の交流を行っています。クレヨンや画用紙を富岡市の方たちからプレゼントしてもらって、「わたしの好きなもの、場所」というテーマで絵を描いています。江原小学校のみなさんとも交流ができればいいですね。

音楽クラブでは、日本から寄付してもらったリコーダー、ピアノカ、ハンドベルをつかって合奏の練習と歌の練習をしています。今年の10月にある JAPAN FESTIVAL (ジャパソフェスティバル) というイベントにむけて、日本の歌の練習を始めました。「上を向いて歩こう」という曲を日本語と英語で歌っています。ポンペイの子どもたちは声がとてもきれいで、日本語を覚えるのもとても早いです。みなさんにもぜひ歌声を聴いてもらいたいです。

さて次回は、同じポンペイで活動する隊員について紹介する予定です。小学校の先生以外の隊員の仕事がどんなものなのか、みなさんに知ってもらうために取材をしてまたお便りを送りたいと思います。